

広島陸上競技史

【草分け期】

明治 20（1887）年の広島師範で行われた運動会種目に、競争と幅跳があった。当時盛んに開かれていた運動会から陸上競技が生まれ、その後 100 年余、多くの先輩たちが普及と発展に努力してきたのである。広島におけるスポーツ熱は、旧制中学校を中心に発展した。特に陸上競技は、中学校の運動会に小学生が招待されて競技することに大変な人気を集めた。

【本格的な陸上競技の普及】

旧制中学校を中心に普及した陸上競技が、長距離走や投てきを加え、やや本格的な陸上競技として発展したのは、明治 42（1909）年広島師範に着任した河津彦四郎氏の指導が大きい。教え子たちは小学校の先生になって、正しい陸上競技を県内に広めた。

【スポーツとしての陸上競技】

大正から昭和初期にかけて約 20 年余りは、陸上競技発展の時代と言える。

中央講師による講習会あり、全国大会への参加あり、やがてその成果はアムステルダムオリンピック（1928）で織田幹雄氏が、三段跳で日本人初の優勝で実る。

その勢いは、広島県陸上競技界に大きな自信と刺激をあたえ、昭和 6（1931）年には、平成 7（1995）年 1 月に 62 回をもって 25 万キロの軌跡を閉じた中国駅伝が創設され、一方女子陸上界は、県女、市女、山中高女の対抗で全国レベルに達し活況を呈した。

【陸上王国広島】

昭和初期は広島が陸上王国として全国にその名をはせた。

ロスアンゼルスオリンピック（1932）には広島出身がコーチの沖田芳夫氏を含めて 4 人、そのうち石津光恵さんは広島が生んだオリンピック女子選手第 1 号である。

次の第 11 回ベルリン大会（1936）には、広島出身選手 3 人、役員 3 人の計 6 人が日本代表選手団として選ばれた。広島陸上王国がうなずける。

【第二次陸上王国】

昭和 20（1945）年終戦の廃墟から力強く立ち上がったのは、復員した旧友たちと再会した陸上 O B の諸先輩であった。

翌 21 年には、増西春三氏を中心に広島陸協再建に努力した。

昭和 16（1941）年広島市内の旧制中学校生徒らの勤労奉仕によって完成した県総合体練場は、畑などに利用され荒廃したままであったが、O B たちの手による修復が急ピッチで進んだ。昭和 21（1946）年広島スポーツ祭が開催され、県営総合グラウンドにおける復活第 1 回の陸上競技大会に喜んだ。

以来、昭和 26（1951）年第 6 回国体、昭和 29（1954）年日独対抗、昭和 42（1967）年第 1 回織田幹雄記念大会、翌昭和 43（1968）年全国高校などを開催、その間駅伝をはじめ

として高校・実業団ともに、全国トップレベルの競技力の維持に努めてきた。

【国際的・全国的イベントの開催】

昭和 60 (1985) 年以来、広島では国際的・全国的イベントの開催が目白押しであった。毎年開催する織田記念国際陸上のほか次の通りで、このことはわが協会には大きな力となり、将来にわたっては、スポーツが地域文化に果たす役割の大きさを証明するだろう。

昭和 60 (1985) 年	I A A F 主催第 1 回ワールドカップマラソン (男・女)
昭和 61 (1986) 年	I A A F 主催第 1 回国際駅伝 (男・女)
平成 4 (1992) 年	日中ジュニア交流競技会
平成 5 (1993) 年	広島陸協主催全国選抜競歩大会 (男・女)
平成 6 (1994) 年	日本陸連・毎日新聞主催第 49 回毎日国際マラソン (男)
平成 6 (1994) 年	H A G O C 主催第 12 回アジア競技大会
平成 8 (1996) 年	日本陸連主催第 1 回全国都道府県対抗男子駅伝 (以後毎年開催)
平成 8 (1996) 年	日本体協ほか主催第 51 回ひろしま国体、第 32 回おりづる大会
平成 10 (1998) 年	第 32 回全国ろうあ者体育大会
平成 11 (1999) 年	第 7 回日・韓・中ジュニア交流競技会
平成 13 (2001) 年	第 28 回全日本中学校陸上競技選手権大会
平成 13 (2001) 年	2001 ねんりんピック広島
平成 14 (2002) 年	スポレク広島 2002
平成 18 (2006) 年	第 24 回レディース陸上競技大会 (19 年も連続開催)
平成 21 (2009) 年	第 93 回日本陸上競技選手権大会

【広島陸上競技協会の設立と法人化】

昭和 3 (1928) 年 I A A F の総会で、日本陸上競技連盟が、わが国陸上界を統括する団体として認められた。それを受けて全国各都道府県に陸上競技協会の結成が促進された。

広島陸協は、明治以来県内各地で活動してきた陸上競技愛好者グループを集め、昭和 7 (1932) 年広島陸上競技協会を設立した。これには広島高等師範の杉浦卯三氏の大きな功績があった。大正 7 (1918) 年着任し、昭和 14 (1939) 年東京都体育課長として転出するまでの 21 年間、陸上競技のみならずスポーツ王国広島を育成した広島スポーツの生みの親といえる存在である。

広島陸協は、広島県スポーツ界の盟主として常にその先導的役割を果たしてきた。そして昭和 60 (1985) 年ワールドカップマラソンの広島開催を契機に、日本陸連青木半治会長 (当時) の勧めもあって協会の法人化に取り組み、平成 2 (1990) 年 2 月 13 日付をもって、財団法人設立の許可を得ることができた。財団法人化については、日本陸連加盟団体のうち第 1 号であったため、1 年数ヶ月に及ぶ生みの苦しみを体験した。平成 14 (2002) 年には、協会設立 70 周年を迎え、記念誌発行等の記念事業を行った。その後、財団法人としての充実に努める一方、公益法人制度改革の実施に伴い、平成 24 (2012) 年 3 月 26 日付をもって移行認可され、一般財団法人広島陸上競技協会として再出発した。